

【原 著】

大学生の人間関係力育成に関する研究の動向と
保育者養成教育への活用に向けて

加藤 由美 安藤 美華代

Trends of Studies and Researches on College Students' Training for Human Relationship Skills
and its Utilization in Education for Childcare Workers

Yumi KATO, Mikayo ANDO

2019

岡山大学教師教育開発センター紀要 第9号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.9, March 2019

原 著

大学生の人間関係力育成に関する研究の動向と 保育者養成教育への活用に向けて

加藤 由美※1 安藤 美華代※2

職務上の人間関係に困難を抱えやすい若手保育者の早期離職の問題が懸念されることから、保育者養成教育においても学生の人間関係力の育成が求められる。そこで、人間関係力を育む保育者養成教育について検討するため、大学生の人間関係力育成に関する国内の先行研究を概観した結果、人間関係力に関する要素、人間関係力の育成に関するワーク等の内容や、保育者養成校も含めた大学における実践的な取り組み内容が明らかとなった。各大学においては、多様な形で人間関係力の育成に関する実践が行われており、特定の授業に限らず、科目間、教員間で連携を図りながら取り組まれた実践報告も見られた。まずは学生自身が人間関係力向上の必要性を感じ、自らの課題や目標の達成に向けて取り組めるよう意欲を高めていくことが大切であり、保育者養成校においては、問題（課題）を解決する力、自分の意見・考えを伝える力等の育成が課題であることが窺えた。

キーワード：人間関係力，保育者養成，大学生，コミュニケーション，対人関係スキル

※1 新見公立短期大学幼児教育学科

※2 岡山大学大学院社会文化科学研究科

I 問題の背景と目的

幼稚園教諭及び保育士（以下、「保育者」と略記。）の離職率の高さや人材不足の深刻化等が指摘される中、保育者を対象とした調査では、半数以上の保育者が園内の人間関係で悩んでいるとの報告がある（黒澤・服部，2016）。職場の人間関係の問題は、保育者の代表的なストレスの原因であり、特に若手保育者にとっては離職につながりやすい要因であると懸念される（加藤・安藤，2012）。保育経験1～3年の幼稚園教諭を対象とした研究からは、園内の管理職や同僚との人間関係に難しさを感じる事が、精神的健康を害し、保育者としての生活を困難にしているとの指摘がある（西坂，2011）。

保育現場では、複数担任制をとったり、新卒者とベテラン保育者が一緒に仕事をしたりする場合が多く、同僚間での連携が重要となる。しかし、保育者一人ひとりの保育に対する考え方や保育の方法は異なるため、互いに共通理解を図ることは容易ではなく、特に若手保育者はそのような状況において困難感を抱え易いと考えられる。保育者の早期離職の理由として、職場の人間関係や管理職との関係、職場への適応におけるつまずきが多く見られることから、保育職につく前段階の大学生を対象とした保育者養成教育において人間関係力を育成することにより、就職後の職場適応における困難感が軽減されるのではないかと期待できる。

日本では、職場における若者のコミュニケーション・スキルの低下や企業が求めるコミュニケーション・スキルのレベルと学生の認識には差があることが報告され

ている（経済産業省，2009）。欧米各国では，コミュニケーション・スキル習得のための教育やトレーニングを取り入れる努力が勧められる一方，日本は社会スキル教育が遅れているとの指摘がなされている（掛札・加藤，2013）。そのような状況において，保育者養成教育においても，人間関係力を育む取り組みが求められていると考える。

そこで，保育者養成教育における人間関係力育成の実践に向けての手がかりを得るため，保育者養成校も含めた大学における人間関係力育成に関連する取り組みについての研究の動向を明らかにすることを目的とした。なお，本稿ではコミュニケーション力，対人関係（社会的）スキル等を総称して「人間関係力」とした。

II 方法

先行研究を概観するために選択された文献の基準は，「大学生の人間関係力育成に関するもの」「保育者養成教育への活用可能性があるもの」とした。人間関係力の育成に関しては，国内だけでも様々な分野で取り組みがなされ，その実践報告等も多数見られることから，本稿では，国内の研究に焦点を当てて検討を行った。本研究の目的に合った文献選択を行うために，「人間関係力」「保育者養成」「大学生」「コミュニケーション」「対人関係スキル」「社会的（ソーシャル）スキル」のキーワードにより，過去20年間に限定して，電子ジャーナルデータベース（CiNii）での検索及び出版された書籍等についての検討を行った。

III 結果

1 人間関係力に関係する要素

まず，「人間関係力」について，どのような要素が関係しているのかを明らかにするために，11の文献について整理し，表1に示した。表中の6文献は一般の大学生に関係する内容であり，5文献は保育者養成校の学生に関係する内容である。「人間関係力」に関係する要素として「積極性・主体性・能動的・責任感・規律性・向上心・探求心・プラス思考等」「葛藤処理力・感情処理のスキル・自己コントロール力等」「課題解決力・仕事の遂行力・対応のスキル等」「傾聴力・状況把握力・感知力・受容・共感・理解等」「自己表現力・伝える力・会話力・コミュニケーション技術・対話のスキル等」「協調性・社交性・柔軟性・和を保つスキル等」「社会人常識等」が見られた。

2 人間関係力の育成に関する具体的なワーク等

次に，保育者養成教育における人間関係力育成の実践に活かすため，人間関係力の育成に関する具体的なワーク等について，13の文献の内容を整理し，表2に示した。ワーク等の内容を表すキーワードは以下の通りであり，（ ）内は文献数である。多かった順に挙げると，「自己理解」（11），「思考法等」「他者理解・聴き方」「自己表現」（9），「対人関係の自己診断」（8），「価値観」「自己開示等」「コミュニケーション」「話し合い」（6），「からだ」「自分の強み等」（5），「問題解決」（4），「自己コントロール等」「チームワーク等」「ビジネスマナー等」（3），「目標設定」（1）であった。

表1 人間関係力に関する要素(国内の先行研究より)

著者等	発行年	内容	対象	人間関係力(コミュニケーション力・対人関係スキル等)に関する要素												
				働きかける力	気持ちを受け止める力	状況把握力・臨機応変さ	コミュニケーション技術	コミュニケーション行動全般								
橋本・長谷川	2015	コミュニケーション行動(チェック表)	一般大学生	自分からいつも明るく挨拶する・自分の意見や思いを素直に相手に伝える・物事をポジティブにとらえようとする等		相手の立場で物事を考える・相手の良いところ気づき・素直にほめられる等		相手に応じた言葉遣い・敬語・適切な表現ができる・場を盛り上げる等		話す前に内容を整理し、組み立ててから話す・話の目的を確認して話す・話し方がわかりやすい等		世の中の移り変わり・流行に敏感等				
高橋・高藤	2013	コミュニケーション能力尺度(町田, 2009)		コミュニケーション力因子					対人ストレスコーピング因子							
				傾聴力	感知力	表現力	社交性	諦め	プラス思考	理解相手	自責					
平尾・重松	2007	大学生のコミュニケーション能力とキャリア意識		パーソナリティー					コミュニケーション力							
				感覚的	論理的	能動的	受動的	聴く力	観る力	感じる力	質問する	伝える力				
西村	2007	コミュニケーション能力		コミュニケーション力												
				人間関係力					コミュニケーション力							
				積極さ	把握力	調整力	明確さ	包容力	表現力	協調性	応対力	柔軟さ	説得力	交渉力		
経済産業省	2006	社会人基礎力		チームで働く力					考え抜く力					前に踏み出す力		
				規律性	把握力	コミュニケーション	柔軟性	傾聴力	発信力	発題力	計画力	創造力	主体性	働きか	実行力	
厚生労働省	2004	就職基礎能力	職業人意識			コミュニケーション能力			基礎学力			力資・格取得等(術語)				
			責任感	探求心	職業意識	意思疎通	表現力	協調性	読み書き	数学的思考	社会常識	コミュニケーション	力資・格取得等(術語)			
加藤・安藤	2016	保育士の対人関係スキル(KISS-18)	感情処理のスキル		対応のスキル		和を保つスキル			対話のスキル						
全国保育士養成協議会	2014	保育者基礎力	仕事に取り組む姿勢		仕事の遂行力		社会的態度		職場の同僚性		社会的マナー					
本吉・細野	2014	保育者のソーシャルスキル(SKISS-18)	葛藤処理力			課題遂行力			会話力							
掛札	2012	保育の現場で求められるスキル	感情・言動・行動を意識し、コントロールする		考える・課題を解決する			聞く・伝える・場を作る・動かす		学ぶ・教える						
			積極性・主体性・能動的・責任感・規律性・向上心・探求心・プラス思考等	葛藤処理力・感情処理のスキル・自己コントロール力等	課題解決力・仕事の遂行力・対応のスキル等	傾聴力・状況把握力・感知力・受容・共感・理解等	自己表現力・伝える力・会話力・コミュニケーション技術・対話のスキル等	協調性・社交性・柔軟性・和を保つスキル等	社会人常識等							

注 筆者により、一部内容を抜粋。各欄の枠の大きさは、内容とは無関係。

3 大学生を対象とした人間関係力育成の取り組みについて

女子短大での心理学系授業における実践では、対人関係における問題解決力を中心に、知識とスキルの両面から、コミュニケーション能力や相互理解、自己表現の向上に取り組んだ結果、学生の対人関係構築への不安が減少し、対人関係へのポジティブなイメージを生み、コミュニケーション能力の向上に役立ったとの報告があった(森際・猪澤・高岡, 2012)。

初年次におけるアクティブ・ラーニングの授業実践による学生のコミュニケーション力養成に関する実践では、コミュニケーションについてのそれぞれの場面での感じ方には個人差があり、苦手意識があってもコミュニケーション行動はできていたこと等が報告された(橋本・長谷川, 2015)。

構成的グループエンカウンター(以下、「SGE」と略記。)の実践は、大学生の社会的スキルの向上につながるなどの報告があった(山本, 2001)。大学・短大等において

表2 人間関係力の育成に関するワーク等の内容(国内の先行研究より)

著者等	発行年	著書・論文	ワーク等の目的と具体的な内容(数字は文献数)															
			からだ	目標設定	自己理解	対人関係の自己診断	自分の強み等	思考法等	問題解決	自己コントロール等	価値観	他者理解・聴き方	自己開示等	コミュニケーション	自己表現	話し合い	チームワーク等	ビジネススキル等
杉原・野呂・橋本	2017	コミュニケーション実践トレーニング	5	1	11	8	5	9	4	3	6	9	6	6	9	6	3	3
鯖戸	2016	コミュニケーションと人間関係づくりのためのグループ体験ワーク			覚悟(VAK)等			見方を変えてみる(リフレミング)						信頼関係を築くための3つの技法				
村山(監修)・鬼塚(編)	2014	じぶん&ここまなBOOK			自分と向き合うワーク			ホスピタリティを育むワーク						他者を理解する・共感を高める・肯定的な聴き方を学ぶワーク				
安藤	2012	自己理解を深め人間関係力を育む心理教育「サクセスフル・セルフ」			自己評価			自己の強みを探し出すワーク						自己表現(アサーション)				
寿山	2012	社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック(自己理解編)			20 手法			理論的・批判的・創造的・思考力						自己評価・ロールシタリ				
寿山	2012	社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック(社会理解編)			自分軸の分析			分析的・性格分析・人格分析						戦略的自己PRマトリク				ビジネススキル・論理的な文章
森際・猪澤・高岡	2012	カウンセリングスキルの実践:獲得スキル			自己理解			問題解決療法						自己紹介スキル				職業スキル・敬語
山本	2011	ストレングスアプローチワークブック			スケールアップ・クエスチョン			リフレミング						友達の良さを自分と他者の強みを引き出す				
丹治	2010	大学生の自己理解を目的としたグループワークの開発						自由理想(理想)						他者の思い(私)				
福井	2007	対人スキル・トレーニング対人関係の技能促進実践ガイドブック			フォロースト等			対人関係の自己診断(投影法)						コミュニケーションの仕方				
星野	2007	職場の人間関係づくりトレーニング			自分探し(プライベートマップ)			関係的成長(私)						3つの大きく(聞く・聴く)				
星野	2003	人間関係づくりトレーニング			自己概念			思い込み						わかる(理解)				
吉武・久富	2001	じぶんに聴いて、じぶんに話そう。コミュニケーションとコミュニケーションスキルを学ぶ			自律訓練法等			エゴグラムで知る心の構造・交流のパターンを学ぶ						職場内のコミュニケーション				定型化した対話

注 人間関係力の育成に関するワーク等を抜粋。筆者により、一部文言の修正や内容の統合を行った。

SGEを活用するねらいは「自己開示の仕方と自己受容、自己開示における自己発見」であり、対人関係の拡大を体験することやふれあいによる自己洞察の体験等がある(岡田, 2004)。SGEエクササイズの内容は、学生同士のリレーションの形成に重点をおき、緊張感の緩和、不安の軽減をねらいとしたエクササイズを十分に行ってから対人関係づくりに入り、徐々に対人関係を広げられるように構成し、次第に非言語によるコミュニケーション、感情や価値観の表明にかかわるエクササイズを取り入れる等、内容を深めていくとされていた(武蔵, 2004)。SGEの合意課題エクササイズを用いたクラブ・サークルリーダー学生の社会的スキルの育成に関する報告も見られた(横山, 2015)。

大学生の自己理解を目的としたグループワークの実践報告では、「性格バスケット」「コンセンサス」「価値観の個人差」等、7つのワークに関する内容とその意義について考察していた(丹治, 2010)。

「グループワーク・トレーニング」とも呼ばれるラボラトリー方式の体験学習(以下、「ELLM」と略記。)は、自己成長のための行動目標を自ら設定するという認知構造や態度レベルの変容を想定しており、大学生を対象とした実践では、ELLMの実施群は統制群に比べて、「自己発見動機」「体験学習過程重視」「プロセス視点重視」「感情共有重視」得点の変化量が高かったこと等が報告されていた(中村, 2018)。

大学生の自己表現への方略のなさを低減する試みとして、P4C(対話的方法による哲学教育プログラム)、協同学習、SGEをもとに小グループでの話し合いを行った実践報告では、ねらいを達成しやすい教材選択が教育学習支援プログラムを構成する上での重要な要素であること、専門性などにより教材と対象学生のマッチングや実験統制を考慮することが重要であることが指摘されていた。(樽木・榊原, 2014)。

自己理解を深め人間関係力を育むことを目的とした心理教育“サクセスフルセルフ®”の大学生を対象とした介入研究では、プログラムを実施した群は、対人関係に対する自己効力感が有意に増加したこと、女性においては不安が有意に減少したこと等が報告されており、プログラムの実施による自己理解、他者との意見交換や共有、対人関係にまつわる取り組みが、不安予防やもめごとへの対処と解決につながる可能性があることが示唆された(安藤, 2011・Ando, M., 2011)。

大学生を対象とした即興劇(インプロ)によるコミュニケーショントレーニングが集団討論場面に与える影響に関する実践研究では、インプロにより議論における表現力、解読力、自己主張性、集団満足度の向上、葛藤の減少、発話声量やジェスチャが大きくなる等のポジティブな影響が報告された(月田・高嶋・横山・市野・伊藤・大坊・北村, 2014)。

社会福祉分野の授業における「人間関係力向上プログラム」の介入効果に関する研究では、プログラムを行うことで、自分らしくある感覚を測定した「本来感」を高め、コミュニケーション力の本質的な部分である精神的活動能力を強化する効果があること、新入生の新たな環境への不適応感を緩和する効果が期待されること等が示された(久米・野村・石川・友永・坂田・島津・谷内, 2014; 野村・久米・石川・友永・松田・坂田・島津・谷内, 2014)。

理学療法の分野で、学生の社会的スキルを向上させる要因を明らかにするため臨

床実習感想文の計量テキスト分析を行った研究では、臨床実習の場でコミュニケーションや関係作りの難しさとその重要性に学生が気付くこと、反省を否定的ではなく今後に繋げる自らの課題として捉えることが大切であると報告していた（篠崎・浅川・大橋，2013）。

看護学生へのロールレタリング（以下、「RL」と略記。）の効果に関する実践では、文章による感情の明確化、自己カウンセリング作用、カタルシス作用、対決と受容、自己と他者、双方からの視点の獲得が検証できたとして、RLが看護学生の自己理解と他者理解を促す効果があることが確認され、看護基礎教育における対人関係能力およびコミュニケーション能力獲得の方法として、RLを活用するための教育的示唆を得たとの報告があった（榮田・森田，2016）。

看護短期大学1年生を対象に、授業「人間関係論」において「からだ気づき実習」を3年間実践した報告では、入学間もない時期の学生に有効であること、丸ごとのからだに気づきが起こり、自己や他者の理解を深め、人間関係の成り立ちを経験しながら学ぶこと、表情、しぐさ等の非言語的なかわりを経験し、全身で相手の表現を受け取るコミュニケーションを実践し学ぶこと、自らの課題を見つけ「私」と向かい合う経験をするといった学びの姿を明らかにしていた（足立・小笠原・松本，2008）。

4 保育者養成校の学生を対象とした人間関係力育成の取り組みについて

保育者養成校の学生（以下、「保育学生」と略記。）の主体的な課題解決を目指す体験型教育プログラムの実践では、学生自身の専門的知識や技能、生活力を高める様々な直接体験の機会を作り、課題解決型の活動や学習を通じてコミュニケーション能力や共同作業・連携の能力を高め、社会および自分自身に達成課題を見通し、段階的に解決・達成を図ることのできる力の育成を目的とした取り組みを行っていた。その成果として、対象者・児の保育ニーズの理解と対応力の向上、課題解決のための素養の向上、対人援助の技能・知識の向上等が認められ、学生の主体的な課題解決の力の向上につながっていた（前田・関山・太田・鈴木・大神・塩野谷，2018）。

オペレッタ制作活動を通じた人間関係力向上に向けての実践では、制作の効果として「自分から他者と関わる」「自分の思いを伝える」「他者の考えを受け入れる」等の力の向上が、上演の効果として「完成度の高いものを求める」「自信をもつ」等の意識の高まりが認められた一方、人の意見を受け入れることができない学生等には効果が見られなかったことが報告されていた。養成校で取り入れるべき活動経験として「学生同士が支え合い、教え合う体制を作る」「グループの中に人間性豊かで人間関係力の高いリーダーが配置されている」等の7点を挙げ、人間関係が固定する前の1年次での実施が効果的ではないかとの指摘があった（永淵，2016）。

保育学生の表現力と人間関係力の向上を目指した音楽劇の取り組みにおいては、得意とする役割を選び、親しくない人とでも協力して活動できること、話し合いで自分の思いをきちんと出せるようになること等を目標に実践した結果、目的に向かって共同することの意義と楽しさ、役割分担の大切さを感じたとの学生の感想が多く

見られたことが報告されていた（津山・矢野・富永・田中，2017）

保育者養成校の1年次科目「保育内容指導法（人間関係）」における実践では、自己開示、小グループでのロールプレイやエコマップ作成による関係性の構築等を行った結果、初年次初期に自分に向き合う体験を行うことは他者への関心につながり、自分を取り巻く人間関係を肯定的に俯瞰することになる等との報告があった（村石，2015）。

保育者養成短大における自己理解の深化とコミュニケーション能力の向上を重視した参加体験型教育プログラムの実践では、活動に参加した2年生への質問紙調査の結果から、自己のパーソナリティや他者を肯定的に受け止める方向へ変化が見られたこと等が報告されていた（片山・濱田・富永，2010）。

保育士養成における学生支援のあり方の一つとして、保育者としてのコミュニケーションスキルの向上に関する取り組みを行った実践では、正規授業や課外研修講座等の中で、グループワークの導入および自己理解のためのエゴグラム、傾聴演習等による実践的な演習を積極的に行った結果、グループや全体での意見発表への自信や自己肯定感の向上につながり、相手の考えを聞き取ったり質問したり等、他者との円滑なコミュニケーションのあり方の習得につながっていた（伊藤・長谷川・根津・大森・栗岡・丸山，2018）。

保育者として直面する様々な課題について、教師主導ではなく、社会的スキルの向上に必須の要素（話す・書く・聴く・読む・考える・発表する）を学生自身が意識できるような内容（個別の活動・二人組の演習・グループワーク）を取り入れた保育系科目における授業実践では、実践によって学生の苦手意識の克服につながり、発表する力の向上が見られたとの報告があった（善本・善本，2008）。

保育学生の対人関係能力向上のための面接ロールプレイの実践では、対人的自己効力感や友人との葛藤解決能力を高めたことが報告されていた（金子・金子・金子，2018）。また、学生による簡易型マイクロティーチング、いわゆる模擬保育の実践研究もなされており、模擬保育を役割演技と考えると、保育者養成課程4年次の学生に対して管理職の立場を実感させるべく、園長職や主任となる疑似的な体験である簡易型マイクロティーチングを行うことが望ましいとの提案がなされていた（金子，2013）。

5 保育学生の実態と求められる人間関係力について

最近の保育学生について、将来への見通しをもち、未来の自分像に向けて努力することが難しい、様々なことを自分の視点から考え、他者の視点に立つことが苦手である、自分を主張したり他者と向き合ったりする経験が乏しく、先輩から何か言われても自分の意見を主張できない等の傾向が見られるとの指摘があった（今井，2016）。

保育学生を対象とした調査では、自身のコミュニケーション力について、対象にかかわらず「やや苦手」「苦手」と答える割合が高く、保育者に不可欠な力であると認識していながらも、苦手意識をもつ学生が多いこと（小川，2011）、1年生を対象とした調査では、学生自身のコミュニケーション能力に関して、最初の関係作りや

能動的に働きかけることについて苦手意識をもつ学生が少なくないことが報告されていた（真下・張・中村，2010）。

保育園・幼稚園実習では「笑顔で明るい態度」が強く求められるが、実習園からは、「笑顔が少ない」「もっと表情豊かに」等、指摘される学生も存在した（上月，2011）。

「幼稚園教育実習生困難測定尺度」により5因子を抽出した研究では、「指導体制」に関する因子として「担当の先生が私の質問にあまり答えてくれない」等の実習生指導に関する内容や、「担当の先生に自分らしいところを出せない」等の人間関係に関する内容が見られた（金子，2013）。

保育者養成校における重要な課題として、意図的に学生同士が関わる機会を設け、人間関係力を向上させること（永淵，2016）、人とのコミュニケーションの基盤となる学生自身の対人関係を自ら構築する力を育成すること（真下・張・中村，2010）、「自己主張」「表現力」等のスキル獲得を目指すこと（桑原，2014）等が挙げられていた。

保育学生の全般的な社会的スキル、特に課題達成にかかわるスキルの弱さが見られたことから、課題解決能力の向上を視野に入れた授業内容や学生自身に社会的スキルについての認識と自覚を促し、学習意欲を高めていくことの必要性（善本・善本，2008）や、保育学生のストレス対処力を高めるための研修や教育の有効性についての指摘もあった（宇佐美・西・高尾，2015）。

新任保育者及び園長を対象とした聞き取り調査では、園という組織の中でつながる楽しさや指導を受ける際に受容的な心を持つことができる寛容さを得るために、養成校の役割として「自己肯定感」と「他者肯定感」を共に育むことの必要性が指摘されていた（梅下・野田・鈴木・鈴木・大岩，2016）。

IV 考察

先行研究を概観した結果、様々な分野において、多様な形で人間関係力の育成に関する実践が行われていた。特定の授業だけではなく、科目間、教員間で連携を図りながら取り組まれた実践報告も見られた。授業そのものが社会的スキルアップのためのトレーニングとなるような教育の必要性や、各授業において少人数編成のグループワークを行う等アクティブ・ラーニングの意識的な導入の重要性に関する指摘もあり、特定の科目に限らず、学生の人間関係力の向上に寄与するような教育方法が求められていることが窺えた。

「人間関係力に関係する要素」（表1）と「人間関係力の育成に関するワーク等の内容」（表2）には密接な関連が見られ、表2におけるワーク等の実践を通して、表1の人間関係力に関係する要素の多くは、育成したり身に付けたりすることが可能であると推察された。

表2に示した人間関係力育成に向けたワークは、いずれも大学の授業で取り入れることが可能な実践的な内容であり、この中で最も多く用いられていたのは、自己理解を目的とした内容で、対人関係の自己診断である「エゴグラム（交流分析）」や自分の強みを知るワーク等を含めると20以上見られた。人間関係力の育成を考えた場合、まずは自己理解が基盤となるため、自分自身を様々な観点から理解できるよう

多様なワークが用いられていることが窺えた。

また、人間関係力を考える上で必要な要素として、肯定的思考（ポジティブ思考）、感情をコントロールする力、問題（課題）解決力等が見られた。これらは、物事を違う角度から捉えるリフレーミングや肯定的に考えるポジティブ思考を目指すワーク、イライラや葛藤等をコントロールするためのワーク等を通して身に付けることが可能であると考えられた。問題（課題）解決力については、特に保育学生に求められる力であるとの指摘があり、学生自身が主体的に問題（課題）解決に向けて取り組めるような学習の場が求められる。例えば、実際に起こりうる場面を想定し、どのような対処・解決が可能かを考えられるようなワークや、様々な直接体験の機会を設け、その中で課題解決型の活動を行うといった方法がある。

人間関係力を考える上では、自己理解と共に他者理解が欠かせない。表2においても、他者の価値観や生き方を理解するためのワークや話の聴き方、相手への共感・理解のためのワーク等が多く見られた。保育学生には、他者の視点に立つことが苦手な傾向も見られることから、このようなワークを通じた実践が求められる。また、他者の視点を理解するための方法として、先行研究に見られた簡易型マイクロティーチング、いわゆる模擬保育のような疑似的体験やロールプレイ、RLの実践も参考となる。ロールプレイでは、同じ問題であっても立場によって感じ方や受け取り方が違ってくるため、視点を変えて問題をとらえ直す経験ができ（新保・田中，2016）、RLにおいても同様の効果が期待できると考えられた。

また、表2のワークの中では、アサーション・スキル等の自己表現や自己開示、コミュニケーションに関する内容も多く見られた。自分の意見を主張できないといった学生の傾向や、「自己主張」「表現力」等のスキル獲得を目指した取り組みが必要との指摘を踏まえると、保育者養成校においては、表1に挙げられた「自分の考えや意見を発言するスキル」「状況をきちんと説明できる言語力」「伝えるべき内容を的確に伝える力」等の育成は重要な課題である。

保育者のソーシャルスキルと対人ストレス場面の認知的評価に関する研究では、対人関係のトラブルを解決する葛藤処理力、慣れない場面での言語的コミュニケーションや気持ちを表現する会話力、仕事の目標・方針を立てる課題遂行力のそれぞれが高くなるほど対人ストレス場面におけるコントロール得点が高く、対処可能と評価したことから、ソーシャルスキルは対人ストレス場面の対処可能性の評価に大きく影響を与えているとの報告がある（本吉・細野，2014）。保育者の精神的健康の維持に関与する要因として、葛藤場面で自分の感情をコントロールするといった「感情調整」ができること、自分の将来を肯定的に捉えて目標や希望を持つといった「肯定的な未来志向」の傾向にあること等が示されており（西坂，2011；西坂，2009）、困難に対して悲観的になるのではなく、自らの成長や目標につながるものとして前向きに捉えるといった困難と向き合う姿勢も大切である（西坂，2014）。人間関係の在り方について学ぶとともに、こうした自己のあり方について学生自身が認識できるようにする必要がある。学生の傾向として、将来への見通しをもち、未来の自分像に向けて努力することが難しいとの指摘もあるため、学生自身が人間関係作りの重要性に気付き、人間関係力を高めることの必要性を感じ、自らの課題や目標の達

成に向けて取り組んでいけるよう意欲を高めていくことが大切である。

V まとめと今後に向けて

人間関係力を育む保育者養成教育のあり方について検討するために、国内の先行研究を概観した。その結果、人間関係力に関係する要素（主体性、葛藤処理力、課題解決力、傾聴力、自己表現力、協調性、社会人常識等）や人間関係力の育成に関するワーク等の内容（自己理解、他者理解、自己表現、コミュニケーション、問題解決、自己コントロール、チームワーク等）、保育者養成校も含めた大学における人間関係力育成に関する具体的な取り組み内容が明らかとなった。各大学においては、多様な形で人間関係力の育成に関する実践が行われており、特定の授業に限らず、科目間、教員間で連携を図りながら取り組まれた実践報告も見られた。まずは、学生自身が人間関係力向上の必要性を感じ、自らの課題や目標の達成に向けて取り組めるよう意欲を高めていくことが大切であり、保育者養成校においては、問題（課題）を解決する力、自分の意見・考えを伝える力等の育成が課題であることが窺えた。どのような授業においても人間関係力の育成につながる教育の展開は可能であり、学生の人間関係力の向上に寄与するような教育方法が求められている。

引用文献

- 足立美和・小笠原大輔・松本佳子（2008）看護教育における「人間関係論」の教育方法—学生の学びを手がかりにして— 川崎市立看護短期大学紀要, 13(1), 49-62.
- 安藤美華代（2012）自己理解を深め人間関係力を育む心理教育“サクセスフル・セルフ” 岡山大学出版会.
- 安藤美華代（2011）大学生の情緒的および行動上の問題を予防する心理教育的プログラム—“サクセスフル・セルフ大学生版2”を用いた介入研究— 岡山大学大学院研究収録, 147, 113-123.
- Ando, M. (2011). An intervention program focused on self-understanding and interpersonal interactions to prevent psychosocial distress among Japanese university students. *Journal of Adolescence*, Doi:10.1016/j.adolescence.2010.12.003
- 福井康之（2007）対人スキルズ・トレーニング—対人関係の技能促進修練ガイドブック— ナカニシヤ出版.
- 橋本美香・長谷川真紀（2015）コミュニケーション力養成に関する調査 川崎医学会誌—一般教養篇, 41, 49-57.
- 平尾元彦・重松政徳（2007）大学生のコミュニケーション能力とキャリア意識 大学教育, 4, 111-121.
- 寿山泰二（2012）社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック（自己理解編） 金子書房.
- 寿山泰二（2012）社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック（社会理解編） 金子書房.

- 星野欣生 (2007) 職場の人間関係づくりトレーニング 金子書房.
- 星野欣生 (2003) 人間関係づくりトレーニング 金子書房.
- 今井和子 (2016) 主任保育士・副園長・リーダーに求められる役割と実践的スキル ミネルヴァ書房.
- 伊藤博・長谷川重和・根津隆男・大森雅人・栗岡明美・丸山幸三 (2018) 保育士養成における学生支援のあり方 全国保育士養成協議会 平成29年度保育士養成研究所報告書, 14-22.
- 掛札逸美・加藤絵美 (2013) 保護者のシグナル観る聴く伝える 保育者のためのコミュニケーション・スキル ぎょうせい.
- 金子智栄子・金子巧一・金子智明 (2018) 保育者の力量を磨く—コンピテンス養成とストレス対処— ナカニシヤ出版.
- 金子智栄子 (2013) 保育者の力量形成に関する実践的研究—有効な保育者養成と現職研修のあり方を求めて— 風間書房.
- 片山勝茂・濱田智崇・富永良史 (2010) 自己理解の深化とコミュニケーション能力の向上を重視した保育者養成の取り組み 仁愛女子短期大学研究紀要, 42, 1-11.
- 加藤由美・安藤美華代 (2016) 保育士の抑うつに関連する要因の検討—経験年数, 首尾一貫感覚, 対処スキルに着目して— 保育学研究, 54(1), 54-66.
- 加藤由美・安藤美華代 (2012) 新任保育者の抱える困難に関する研究の動向と展望 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 151, 23-32.
- 経済産業省 (2009) 大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査 [<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/freeitem.htm>] (2018年11月1日閲覧)
- 経済産業省 (2006) 社会人基礎力[www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.htm] (2018年11月1日閲覧)
- 厚生労働省 (2004) 若年者の就職能力に関する実態調査 ([<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/01/h0129-3.html>]) (2018年11月1日閲覧)
- 久米喜代美・野村知子・石川利江・友永美帆・坂田澄・島津淳・谷内孝行 (2014) 「人間関係力向上プログラム」の介入効果に関する研究—実習のための社会福祉入門の授業から— 桜美林大学心理学研究, 5, 105-116.
- 黒澤祐介・服部敬子 (2016) 若手保育者が育つ保育カンファレンス—悩みとねがいに寄り添う園内研修— かもがわ出版.
- 桑原千明 (2014) 保育者養成校における演習を通じたコミュニケーション・スキルの変化 関東短期大学紀要, 56, 71-78.
- 前田泰弘・関山邦宏・太田光洋・鈴木みゆき・大神優子・塩野谷祐子 (2018) 主体的な課題解決を目指す保育者育成の体験型教育プログラムの展開 平成28 (2016) 年度和洋女子大学教育振興支援助成成果報告 和洋女子大学紀要, 58, 165-174.
- 真下知子・張貞京・中村博幸 (2011) 保育者—保護者間のコミュニケーションの改善をめざした研究(2)—保護者からの相談に対する保育者の答え方の特色— 京都文教短期大学研究紀要, 50, 136-146.
- 森際孝司・猪澤歩・高岡しの (2012) 女子短期大学における心理学系科目導入に関

- する一考察—グループワーク授業を取り入れた新たな試み— 京都光華女子大学短期大学紀要, 50, 1-9.
- 本吉大介・細野広美 (2014) 保育者の対人ストレスの認知的評価とソーシャルスキルの関連 健康心理学研究, 27, 1, 45-52.
- 村石理恵子 (2015) 短期大学初年次における領域「人間関係」の授業検討 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要, 50, 103-112.
- 村山正治監修・鬼塚淳子編 (2014) じぶん&こころまなBOOK 培風館.
- 武蔵由佳 (2004) 第2章 学校教育に生かす構成的グループエンカウンター 4どんなときにエンカウンターを活用できるか 24 専門学校・短大・大学 [國分康孝・國分久子 (2004) 構成的グループエンカウンター事典] 図書文化, 77.
- 永渕美香子 (2016) 保育者養成校における人間関係力の育成. 保育文化研究 (2), 39-50.
- 中村和彦 (2018) 構成的なラボラトリー方式の体験学習が大学生に及ぼす効果—対人的傾向, 学習観や人間関係観, コミュニケーション・スキルを指標として— 人間関係研究 (南山大学人間関係研究センター紀要), 17, 1-23.
- 西村より子 (2007) 実践 人間関係学「サイグラム」(Vol.5)人間関係力を身に付けるとコミュニケーション上手になる PharmaNext (41), 73-75.
- 西坂小百合 (2014) 新任保育者が直面する困難とこれからの保育者養成(保育の歩み その2 保育フォーラム これからの保育者養成の在り方) 保育学研究, 52 (3), 461-463.
- 西坂小百合 (2011) 若手幼稚園教師の精神的健康に及ぼすストレスと職場環境の影響 立教女学院短期大学紀要, 42, 101-110.
- 西坂小百合 (2009) 新任保育者にとっての職場環境とストレス 日本発達心理学会第20回大会発表論文集, 348.
- 野村知子・久米喜代美・石川利江・友永美帆・松田与理子・坂田澄・島津淳・谷内孝行 (2014) 相談援助の基礎学習としての「人間関係力向上プログラム」の実施と効果に関する報告(II. 基盤教育院における実践) 桜美林大学OBIRIN TODAY—教育の現場から—, 103-117.
- 小川房子 (2011) 笑顔あふれる保育者を育てるとのこと [諏訪きぬ監修・戸田有一・中坪史典・高橋真由美・上月智晴編著 (2011) 保育における感情労働—保育者の専門性を考える視点として—] 北大路書房, 155-156.
- 岡田弘 (2004) 第2章 学校教育に生かす構成的グループエンカウンター 4どんなときにエンカウンターを活用できるか [國分康孝・國分久子 (2004) 構成的グループエンカウンター事典] 図書文化, 52-53.
- 鯖戸善弘 (2016) コミュニケーションと人間関係づくりのためのグループ体験ワーク 金子書房.
- 柴田絹代・森田敏子 (2016) 看護学生の自己理解と他者理解を促進するロールレタリングの効果—看護師養成所2年課程に学ぶ看護学生の臨地実習から— 徳島文理大学研究紀要, 92, 53-82.
- 篠崎真枝・浅川育世・大橋ゆかり (2013) 社会的スキルを向上させる要因は何か—臨床実習感想文の計量テキスト分析— 第48回日本理学療法学会抄録集, 40

(2).

- 新保庄三・田中和子 (2016) 保護者支援・対応のワークとトレーニング ひとなる書房.
杉原桂・野呂幾久子・橋本ゆかり (2017) コミュニケーション実践トレーニング
ナカニシヤ出版.
- 高橋桂子・斎藤英理 (2013) 大学生のコミュニケーション能力と対人ストレスコー
ピングが友人関係満足感に与える影響 新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科
学編, 5(2), 171-179.
- 丹治光浩 (2010) 大学生の自己理解を目的としたグループワークの開発 花園大学
社会福祉学部研究紀要, 18, 1-16.
- 樽木靖夫・榊原健太郎 (2014) 大学生の自己表現への方略のなさを低減する試み—
話し合いに焦点をあてて— 帝京科学大学紀要, 10, 177-182.
- 月田有香・高嶋和毅・横山ひとみ・市野順子・伊藤雄一・大坊郁夫・北村喜文 (2014)
即興劇(インプロ)によるコミュニケーショントレーニングが集団討論場面に与え
る影響 電子情報通信学会技術研究報告, 114(67), 193-198.
- 津山美紀・矢野洋子・富永剛・田中敏明 (2017) 保育を学ぶ学生の表現力と人間関
係力の向上を目指した音楽劇—関係5分野の連携による共同制作— 九州女子大学
紀要, 53(2), 75-84.
- 上月智晴 (2011) 保育者養成の窓から見た感情労働 [諏訪きぬ監修・戸田有一・中
坪史典・高橋真由美・上月智晴編著 (2011) 保育における感情労働—保育者の専
門性を考える視点として—] 北大路書房, 146-154.
- 梅下弘樹・野田美樹・鈴木文代・鈴木方子・大岩みちの (2016) しなやかな保育者
になるために—現場と養成校の接続から— 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研
究紀要, 49, 13-21.
- 宇佐美尋子・西智子・高尾公矢 (2015) 保育者のストレスに関する研究—女性企業
従業員との比較検討— 聖徳大学研究紀要 聖徳大学26, 聖徳大学短期大学部48,
1-7.
- 山本銀二 (2001) エンカウンターによる“心の教育”—ふれあいのエクササイズを
創る— 東海大学出版会.
- 山本眞利子 (2011) ストレンジスアプローチワークブック ふくろう出版.
- 横山孝行 (2015) 合意課題エクササイズを用いたクラブ・サークルリーダー学生の
社会的スキルの育成 東京工芸大学工学部紀要, 38 (2), 1-9.
- 善本眞弓・善本孝 (2008) 保育学生の社会的スキル—保育学生の特徴と保育者養成
に求められる教育— 横浜女子短期大学紀要, 23, 27-38.
- 吉武光世・久富節子 (2001) じょうずに聴いてじょうずに話そう—カウンセリング・
マインドとコミュニケーション・スキルを学ぶ— 学文社.
- 全国保育士養成協議会専門委員会 (2014) 平成25年度専門委員会課題研究報告書
保育者の専門性についての調査—養成課程から現場へのつながる保育者の専門性
の育ちと専門性向上のための取り組み— 全国保育士養成協議会.

追記

本研究は、平成30～33年度科学研究費助成事業【基盤研究C】「人間関係力を育む保育者養成教育のあり方に関する実践的研究」（課題番号：18K03163，研究代表者：加藤由美，研究分担者：安藤美華代・住本克彦）の助成を受けて行った研究成果の一部である。

Trends of Studies and Researches on College Students' Training for Human Relationship Skills and its Utilization in Education for Childcare Workers

Yumi KATO*1, Mikayo ANDO*2

In order to address the issues of early turnover by younger childcare workers who are vulnerable to troubles from interpersonal relationship at their workplaces, educators for childcare workers need to train students for human relationship skills at educational institutions for childcare workers. After reviewing previous studies on college students' training for human relationship skills in Japan to consider how we should train them to have better skills, factors related to human relationship skills, workshops for college students to have better skills, and implementing of practical training by universities including those for childcare workers, are extracted. In universities, many kinds of implementation are seen, such as those integrating among various lectures and seminars. It is primarily important for students to feel the necessity to have upgraded skills for better interpersonal relationships so that they can vigorously work out for achievement of their challenges and goals. It is imperative for educational institutions for childcare workers to train students to have skills of problem-solving and opinion-expressing.

Keywords: human relationship skills, education for childcare workers, communication, interpersonal relationship skills

*1 Department of Early Childhood Education, Niimi College

*2 Graduate School of Humanities and Social Sciences, Okayama University
